

保育者における道徳発達に関する認識と学級経営観の変化 —教頭・主任教員は自身の変化をどのように認識しているか—

越中康治

宮城教育大学 教育学部 学校教育講座

本研究の目的は、保育者が自身の発達観や指導観の変化をどのように認識しているかを探ることであった。私立幼稚園の教頭・主任教員を対象として質問紙調査を実施し、主任等になる前と現在とで、幼児期の道徳発達に関する認識や学級経営観にどのような変化が生じたかを尋ねた。その結果、道徳発達に関する認識について、保育者は、主任等になる前よりも現在の方が、6歳の子ども(年長児から1年生にかけて)は自分のことは自分ですることができ、みんなのために進んで働き役立とうとすると認識するようになったと回答した。また、学級経営観について、保育者は、主任等になる前よりも現在の方が、心情を重視した受容的な関わりをより大切なこととして認識するようになったと回答した。保育者は、教頭・主任としての経験を重ねる中で、より保育者らしい道徳発達に関する認識と学級経営観を抱くようになる可能性が示唆された。

キーワード: 保育者、教頭、主任教員、学級経営観、道徳発達観

1. 問題と目的

秋田[1]の保育者の発達段階モデルによれば、保育者は次の5つの段階を経て発達していく。段階1は「実習生・新任の段階」である。これは、一人前として扱われておらず、場に参加することから学ぶ段階である。段階2は「初任の段階」である。正式に仕事の輪の中に入る一方で、過剰な自己犠牲が見られたり、あるいは先輩の助言を鵜呑みにするような姿が見られる段階である。段階3は「洗練された段階」である。徒弟から同僚としての関係性へと移行し、子どもだけでなく親や家族にまで目を向けることが可能となる段階である。段階4は「複雑な経験に対処できる段階」である。特別な境遇の子どもや家庭への援助などに専門家として自律的に働くことが可能となり、実践や臨床的側面での熟達に加え、園経営や若手の教育・助言を担う段階である。そして、段階5が「影響力のある段階」である。現場の将来の発展を導くとともに、社会的条件の改善・保護にも目を向けることが可能となり、自分の実践の作り手としての主張とともに、他のスタッフへの責任を負うようになる段階である。

こうした発達段階の中盤から後半にある教頭や主

任教員は、保育の現場における協働を支える上でも重要な役割を担っている。高辻[2]は、発達援助における協働を支える上で大切なポイントとして、以下の4点を挙げている。第1は「個々の保育者の自立性」である。命令—服従の関係や一人に負担が集中するような関係ではなく、それぞれが主体的にとりくむ互恵的な関係の大切さを指摘している。第2は「関係の対等性」である。「同調しなくては」という雰囲気のもと特定の人が意思決定を行うのではなく、経験の浅い新人の意見も、熟達者と同様に尊重される雰囲気の大切さを指摘している。第3は「保育の目標や意識の共有」である。既存の固定的なものが上から一方的に伝えられるというのではなしに、互いの異なる意見から目標や意識が新たに形成されることの重要性を指摘している。そして、第4に「リーダーの存在とリーダーシップ」である。目標達成(Performance)と集団維持(Maintenance)の機能があることに言及しつつ、リーダーが強く指示的すぎることによって、自立性や対等な関係性が奪われる危険性を指摘している。

教頭や主任教員は、保育の現場において、保育の実践と協働を支えるという重要な役割を担う中で、

段階を経て発達していくものと推察される。本研究で問題としたいのは、こうして保育者が成長していくプロセスの中で、発達観や指導観がいかに変化していくのか、そして保育者自身がその変化をいかに認識しているのかという点である。

例えば、保育者(保育士及び幼稚園教諭)及び小学校教諭の学級経営観を検討した中川他[3]は、保育者に比べ小学校教諭が「規範を重視した指導的な関わり」を大切にしているのに対して、保育者は逆に「心情を重視した受容的な関わり」を大切にしていることを明らかにしている。さらに、初任、中堅、熟練の3群間で比較を行ったところ、保育者においては「規範を重視した指導的な関わり」も「心情を重視した受容的な関わり」のいずれについても差は見られなかった。中川他[3]の研究では各段階の保育者を対象に横断的な調査・分析が行われているが、熟練者が回想により過去と比較を行った場合、どのような認識が示されるであろうか。また、越中[4]が検討しているような道徳発達に関する認識について、熟練者は若手時代と現在とで違いを感じているのであろうか。

そこで、本研究では、幼稚園の教頭及び主任教員を対象とした調査から、保育者が自身の発達観や指導観の変化をどのように認識しているかを探ることを目的とする。主任等になる前と現在とで、道徳発達に関する認識と学級経営観に変化があると認識しているかを尋ねることによって、この問題にアプローチする。

2. 方法

2.1 調査時期、対象者及び手続き

2015年7月に開催された私立幼稚園の教頭・主任教員を対象とした研修会の参加者に質問紙調査への協力を依頼した。協力が得られた77名のうち、欠損値のあった14名を除く63名(全て女性)を分析の対象とした。

なお、調査は無記名式で実施した。また、実施にあたっては、本調査が研修の評価等とは一切無関係であること、調査用紙の提出を強制するものではないことを予め伝えた。

2.2 調査内容

年齢、性別、現在の職階、保育歴及び主任等になってからの年数を尋ねた上で、①幼児期の道徳発達に関するイメージと②学級経営観尺度について回答を求めた。

①幼児期の道徳発達に関するイメージ 越中・白石[5]の幼児期の道徳発達に関するイメージ6項目(表1)を用いた。なお、越中[4]では「年長児(5歳児)についてのイメージ」を尋ねているが、本研究では、「6歳の子ども(年長児から1年生にかけて)に対するイメージ」を尋ねている。各項目について、「主任等になる前」と「現在」のそれぞれのイメージを回答する欄を設け、「「現在のお考え」と「主任等になる前だったらどのように答えていたか」をご記入ください」と教示した。それぞれ6件法(非常にそう思う:6点、そう思う:5点、ややそう思う:4点、ややそう思わない:3点、そう思わない:2点、全くそう思わない:1点)により回答を求めた。

②学級経営観尺度 中川他[3]の学級経営観尺度20項目を用いた。なお、この尺度は、「規範を重視した指導的な関わり」と「心情を重視した受容的な関わり」の2つの下位尺度、各10項目からなっている。各項目について、「学級を経営する上で大切なこと」として「主任等になる前」と「現在」のそれぞれの考えを回答する欄を設け、「「現在のお考え」と「主任等になる前だったらどのように答えていたか」をご記入ください」と教示した。それぞれ6件法(非常にそう思う:6点、そう思う:5点、ややそう思う:4点、ややそう思わない:3点、そう思わない:2点、全くそう思わない:1点)により回答を求めた。

3. 結果

3.1 主任等になってからの年数による群わけ

主任等になってからの年数の中央値(5年)を基準として、5年以下を若手群、6年以上を熟練群に折半した。若手群32名の平均年齢は32.50歳($SD=7.65$)、保育歴の平均は10.56年($SD=6.53$)、主任等になってからの平均年数は2.41年($SD=1.36$)であった。また、熟練群31名の平均年齢は41.65歳($SD=6.78$)、保育歴の平均は19.48年($SD=6.91$)、主任等になってからの平均年数は11.13年($SD=5.17$)であった。

なお、分析対象者が自由記述により回答した現在の職階の名称は、「主任」をはじめとして「主任教諭」「学年主任」「教務主任」「副主任」「教務副主任」など多岐にわたった。また、教頭は若手群のうち1名、熟練群のうち4名であったが、以下ではこれらの職階を特に区別せずに分析する。

3.2 道徳発達に関するイメージ得点の分散分析

道徳発達に関するイメージの各得点(①～⑥)について、2(経験群:若手群、熟練群)×2(時期:主任等になる前、現在)の2要因分散分析を行った(表1)。

その結果、全6項目中2項目において、時期の主効果に有意傾向が見られた。保育者は、主任等になる前よりも現在の方が、6歳の子ども(年長児から1年生にかけて)について、①自分のことは自分ですることができ、⑥みんなのために進んで働き役立とうとすると認識していた。

なお、項目①については、経験群の主効果が有意であった。熟練群よりも若手群の方が、6歳の子ども(年長児から1年生にかけて)について、自分のことは自分ですることができると認識していることが示された。

3.3 学級経営観の分散分析

「規範を重視した指導的な関わり」と「心情を重視した受容的な関わり」の各10項目の合計得点について2(経験群:若手群、熟練群)×2(時期:主任等になる前、現在)の2要因分散分析を行った(表2)。その結果、心情を重視した受容的な関わりにおいてのみ、時期の主効果が有意であった。保育者は、主任等になる前よりも現在の方が、心情を重視した受容的な関わりをより大切なこととして認識していることが示された。

表1 道徳発達に関するイメージの各項目の平均値(標準偏差)と2要因分散分析結果(経験群×時期)

	若手群($n=32$)		熟練群($n=31$)		F値(自由度)		
	時期		時期		群 (1, 61)	時期 (1, 61)	交互作用 (1, 61)
	前	後	前	後			
①自分のことは自分ですることができる	5.13 (0.86)	5.28 (0.67)	4.74 (0.80)	4.97 (0.82)	4.16*	3.07†	0.10
②相手の立場や気持ちを理解することは難しい	3.09 (1.13)	3.03 (1.26)	2.77 (1.04)	2.94 (1.13)	0.58	0.20	1.04
③大人が正しいと言えれば何でも正しいと判断する	3.03 (1.02)	2.94 (1.03)	3.10 (1.12)	2.90 (1.17)	0.00	1.25	0.15
④やって良いことと悪いことの区別は難しい	2.41 (0.82)	2.47 (0.97)	2.61 (1.18)	2.55 (1.24)	0.31	0.00	0.49
⑤自分の気持ちを抑えて、我慢することができる	3.88 (0.65)	3.91 (0.72)	3.87 (0.91)	3.90 (1.06)	0.00	0.05	0.00
⑥みんなのために進んで働き役立とうとする	4.06 (0.79)	4.22 (0.89)	4.16 (0.88)	4.37 (1.10)	0.41	3.07†	0.10

注) 時期の「前」は主任等になる前、「後」は現在を指す。

† $p < .10$, * $p < .05$

表2 学級経営観の各得点の平均値（標準偏差）と
2要因分散分析結果（経験群×時期）

	若手群(n=32)		熟練群(n=31)		F値（自由度）		
	時期		時期		群 (1, 61)	時期 (1, 61)	交互作用 (1, 61)
	前	後	前	後			
①規範を重視した 指導的な関わり	45.19 (5.95)	45.22 (6.58)	43.84 (6.30)	44.58 (6.06)	0.47	0.33	0.28
②心情を重視した 受容的な関わり	47.53 (4.35)	48.72 (4.75)	45.16 (6.05)	47.74 (5.07)	2.01	11.59** 前<後	1.59

** $p < .01$

4. 考察

本研究の目的は、保育者が自身の発達観や指導観の変化をどのように認識しているかを探ることであった。私立幼稚園の教頭・主任教員を対象として質問紙調査を実施し、主任等になる前と現在とで、幼児期の道徳発達に関する認識や学級経営観にどのような変化が生じたかを尋ねた。その結果、道徳発達に関する認識について、保育者は、主任等になる前よりも現在の方が、6歳の子ども（年長児から1年生にかけて）は自分のことは自分ですることができ、みんなのために進んで働き役立とうとすると認識するようになったと回答した。また、学級経営観について、保育者は、主任等になる前よりも現在の方が、心情を重視した受容的な関わりをより大切なこととして認識するようになったと回答した。

先行研究からも、「規範を重視した指導的な関わり」よりも「心情を重視した受容的な関わり」を大切にする傾向[3]や幼児期における道徳的自律を認める傾向[4]などは小学校教諭よりも保育者に特徴的なものであると考えられるが、教頭や主任教員は、保育者としての経験の積み重ねの中で、自身のそうした傾向が強まっていることを認識しているものと考えられる。

もっとも、こうした変化は直線的なものではない可能性もあり、より慎重な検討が必要であろう。本研究においても、6歳の子どもが「自分のことは自分ですることができる」という認識は熟練群よりも若手群にお

いて高かった。全般的に見れば、保育者は、教頭・主任教員としての経験を重ねる中で、より保育者らしい道徳発達に関する認識と学級経営観を抱くようになると考えられるが、詳細については今後さらに検討を行う必要がある。

5. 付記

本研究は JSPS 科研費 15K17263 の助成を受けた。

6. 引用文献

- [1] 秋田喜代美: 保育者のライフステージと危機, 発達, vol. 83 (21), pp. 48-52 (2000).
- [2] 高辻千恵: 発達援助における協働, 清水益治, 無藤 隆(編), 新保育ライブラリ 子どもを知る保育の心理学 II, 北大路書房, pp. 135-142 (2011).
- [3] 中川智之, 西山 修, 高橋敏之: 幼保小の円滑な接続を支援する学級経営観尺度の開発, 乳幼児教育学研究, vol. 18, pp. 1-10 (2009).
- [4] 越中康治: 幼児期の道徳発達に関する保育者と小学校教諭の認識, 宮城教育大学情報処理センター研究紀要, vol. 23, 印刷中 (2015).
- [5] 越中康治, 白石敏行: 幼児教育学生の道徳発達観に関する予備的検討, 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, vol. 28, pp. 1-8 (2009).